

大衆の力で解決の扉を開ける!

「今こそ政治決断を!」10・24中央大集会



国労仙台

No. 2535
2008年11月25日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙



十月二十四日、四者・四団体は日比谷野外音楽堂において「今こそ政治決断を! JR採用差別問題の解決要求実現を目指す一〇・二四中央大集会」を開催した。当日は生憎の雨模様にもかかわらず、過去最高の一万二千二百人が結集し、解決に向かって全体が一致結束すると共に、解決を図る決意を固めた。

○主催者挨拶

主催者を代表し国労本部高橋伸二執行委員長は「闘いの積み上げの中で、ようやく解決の扉を開く地点まで到達した。採用差別問題の解決と共に、働く者の雇用と権利、安全と安心な暮らしを求める集会にしたい」と挨拶を述べた。

○来賓挨拶

続いて、政治対策の窓口である民主党・郡司彰参議院議員、日本共産党・仁比聡平参議院議員、社民党・保坂展人衆議院議員の三名から「政治の責任で解決させなければならぬ問題」であるとした挨拶を受けた。(民主党・富岡由紀夫参議院議員も参加)

○情勢報告

そして国鉄闘争共闘会議・二瓶久勝議長が「この局面を作りだしたのは、四者四団体の運動の成果。路頭に迷わない解決が基本であり『解決金・雇用・年金』について政府の決断を求める」「与党公明党の中にこの問題で対応委員会が設置された。三月に予想される判決を勝ち取る姿勢を堅持し、判決直前まで大衆闘争と裁判闘争を基本に政治解決に向けて闘う」と、解決局面に至る経過と決意を述べた。

○労働団体挨拶

労働団体からは平和フォーラム・福山真助事務局長、全労連・大黒作治議長、全労協・藤崎良三議長の三団

体の代表より「労働者の窮状をもたらした源の国鉄問題の全面解決に主力をあげ、労働運動の反転攻勢を勝ち取る」と激励。

○呼びかけ人激励挨拶

今集会の呼びかけ人一〇名(別掲)を代表して、鎌田慧さんは「当り前の労働運動を獲得する再出発の集会。総選挙で野党の躍進を実現させ、野党共闘の力でこの問題を解決しよう」と呼びかけた。

○当事者の決意と家族の訴え

当事者を代表し、鉄建公団訴訟原告団・酒井直昭団長が「この集会を契機に改めて政治責任を追及し、勝利解決を勝ち取る」と決意を表明、国労博多闘争団家族の柳瀬つる代さんは「これ以上仲間を失うことなく一日も早い解決を求める」と訴えた。

集芸アピールが提案され

呼びかけ人 敬称略

☆雨宮 処凛 (作家)

☆片岡 昇 (京大名誉教授)

☆鎌田 慧 (ルポライター)

☆神田 香織 (講師)

☆佐高 信 (評論家)

☆下山 房雄

☆九大名誉教授)

☆芹澤 寿良

☆高知短大名誉教授)

☆塚本 健

☆(東大名誉教授)

☆中山 和久

☆(早大名誉教授)

☆萬井 隆令

☆(龍谷大法科大学院教授)

出向延長の撤回を求めて国交開催

協定の見解で再度対立

地方本部は六月二七日に開催された簡易苦情処理会議において「出向協定の取扱い」における問題点を指摘、改善を求めたが、平行線のまま終了したため、六月三〇日に「国労申第二五号」を申し入れ、今回の国交開催に至った。交渉の中で会社は「就業規則等に基づき取り扱っており、延長についてもライフプランに合わせた取扱いであり問題ない」との姿勢を崩さず、発令撤回の意思はない事を改めて示した。

今回の出向協定の取扱いに関する申し入れの趣旨は、①〇六年十一月、国労東日本本部とJR東日本は過去の紛争について和解で整理を図り、仙台支社において和解を契機にお互いの立場を理解し合い、話し合いを機軸に問題の解決に向け努力してきた。

②こうした経過の中、〇六年一月〇月には本社・本部間で出向協定も締結されていた。その後、閉会の挨拶で全日本建設交通一般労働組合・佐藤隆一中央執行委員長が「野党の足並みも揃い政党・ナショナルセンターもまとまった。裁判闘争と大衆行動の強化で政治解決を図ろう」と更なる奮起を訴え、最後に国鉄闘争支援中央共闘会議山口弘文事務局長の団結頑張ろうで拳を突き上げた。その後デモ隊がJR採用差別問題の早期解決を市民らに訴えた。

なお、仙台地方本部からは各支部共に要請動員数を大幅に上回る組合員の参加(要請九五名、現地集約一四九名)や各県の支援共闘からも多くの参加があった。

こす恐れもある。会社の恣意的な判断で、希望がない中で永久出向が実施できるような事例を作り、また無用な労使紛争に発展することの無い様、協定の正常な取扱いを求めるものであった。今回の国交では正常な協定の取扱いの申し入れに対し「就業規則等に基づき取り扱っている」とし、協定よりも就業規則が優先されるかのような回答であり、協議の中でも「本人の健康状態の推移を見る」としたが、協定の見解は一致せずを終了した。

○国労申と会社回答

一、事前通知の撤回と正常な形で出向協定の取扱いを行われない。

回答：社員の出向については、就業規則等に基づき取り扱っているものである。なお、今回の出向延長については、事前通知どおり発令を行っており撤回する考えはない。

二、本人同意のない形での出向の延長について、過去五年の実績数を明らかにされたい。

回答：出向の延長については、本人の経験や出向先会社の業務内容等を総合的に勘案し行っているものである。

三、ライフプランにあわせて出向延長の期間設定について、本協定には示されていないので見直されたい。

宮城県支部が大会

結成五〇周年記念大会

国労宮城県支部は十一月二日、こくろう会館において第五〇回の定期大会を開催した。支部を代表して秋山委員長は、昭和三十一年に結成されて五〇回の定期大会を迎えた事に対しての御礼を述べた後、以下四点の挨拶を行った。

○秋山委員長挨拶



一、解雇撤回J R 復帰の闘いは、団結と世論

形成の課題を克服し一日も早い解決を目指し奮闘して行く。

二、安全問題は、J R 発足後の合理化によって傷害事故や輸送障害が増大している。設備メンテ再構築合理化以降百名を超えるパートナ―会社社員の尊い命が奪われている。この事を認識し議論し安全・安心そして安定輸送の確立のため奮闘して行く。

三、組織拡大は、職場の問題や仲間の変化に目を配り議論し合いながら、職場でもの言えるようにする事が重要。国労に入ろうという雰囲気全員で作り上げる。

四、平和と民主主義を守る闘いは、改進黨に反対し国民の求める政権交代実現に向け、J R 採用差別事件

解決のためにも衆議院選挙では野党・革新政党的躍進に向け全力で取り組む。

質疑では二名が発言し、要員問題・職場環境・設備メンテ・地震対策・遠距離配転・個人面談・教育問題・春闘・組織拡大・組織対策費・昇進試験・賃金減額等多岐に亘った。

また同支部は大会終了後、結成五〇周年の記念レセプションを開催し、これまでの労をねぎらうと共に、改めて闘いの決意を固めあった。なお任期一年の新執行部は以下の通り。

執行委員長

秋山 正浩

仙台建築

執行副委員長

八巻 孝夫

小牛田運輸区

書記長

山田 芳夫

岩沼駅連

執行委員

内田 五郎

貨物宮城

宮本 広美

仙台電車区

木藤 昭弘

仙台駅連

佐々木 一雄

仙・宮運輸区

佐藤 涼一

小牛田運輸区

千葉 祐悦

仙石線駅連

村上 正博

岩沼駅連

婦人部長

三上 敦子

仙台病院

会計監査

後藤 武志

小牛田運輸区

福原 育夫

仙台電車区

退職

九月三〇日

大村 恒雄さん

仙台保線区分会

蘇武加持善さん

小牛田駅連分会

佐々木敬喜さん

郡山駅連分会

紺野 正美さん

郡山信通分会

佐藤 恵一さん

仙総支部台車分会

長い間お疲れ様でした

仙総支部が定期大会

十月二五日、国労仙総支部はこくろう会館において第二〇回定期大会を開催した。支部を代表し庄司委員長は、以下の挨拶を述べた。

○庄司委員長挨拶

一、J R 不採用事件の早期解決をめざす闘いは、本部によれば「解決の扉に手がかかった状態」であり、そして塩釜で開催された早期解決を求める集会での連帯する会・山下事務局長の言葉を借りれば「今回が最初で最大のチャンス」であり、私たちの長い闘いの中で作り出してきた到達点として迎えた重要な大会である。

二、不当労働行為根絶、労働条件改善、権利確立をめざす闘いでは、一昨年の幹総におけるT K K 社員の死亡事故、そして現在も東日本管内で連日のように輸送障害が発生し、またグループ会社社員を含めた死傷事故が報告されている。いづどのような形で重大事故につながるかも知れない現状において、労働組合としていかに安全を確保していくのが重要な任務になっている。

亡事故、そして現在も東日本管内で連日のように輸送障害が発生し、またグループ会社社員を含めた死傷事故が報告されている。いづどのような形で重大事故につながるかも知れない現状において、労働組合としていかに安全を確保していくのが重要な任務になっている。

○主な質疑など

◆東日本本部が行った「あっせん申請」について。
◆組織強化・拡大の取り組み。新たな再雇用者の組織化をどう図るか。
◆出向協定。早急にJ R に戻す取組みを。

◆〇九春闘。これまで以上の取り組みが必要。

◆部外委託を止める取り組み。エルダーの職場確保と言われるが、安全面も含めた直営の確保が必要。

◆インフルエンザ予防接種。各科毎に対応に違いがあり混乱。統一した対応を。

◆社員共済会の契約。発足時の経過から未加入である社員が存在。途中加入の承認がされるよう組合として働きかけを。

◆大地震などの異常時の扱い。会社は出社を優先し、帰宅は考えていない。モニター通勤者が五〇名を超えており、帰宅難民問題も。

◆アスベスト検診。放射線被爆を考慮してか八名減。昇進試験。実習生が合格

来年も交流を約束

11月1日、国労山形県支部にて、山形連合会芋煮会が開催されました。

今回も昨年に引き続き、仙台駅連分会の仲間を交えた合同芋煮会として盛大に行われました。

宮城県支部の千葉執行委員(仙石線駅連分会)を始めとして、仙台駅連分会の7名から宮城の地より参加して頂きました。今回は地域間異動から帰ってきた畑山さんの歓迎会も兼ねており、山形連合分会は駅班を中心に12名の仲間が参加し、家族を含め総勢20名の交流会となりました。熊鍋ときりたんぽ鍋という芋煮とは無関係な鍋料理が前日から仕込まれ、さしずめ「鍋合戦」の様相も？

材料調達から調理、会場設定まで全て仙台駅連・山連合同で行いました。11時から始まり、17時頃まで事務所にて交流し、その後場所を変えて更に交流は続きました。交流の中では、「駅職場での過不足金が出た時の扱いがひどい」「4年連続の冬期発令について」「新採とのかかわり」「各職場の現状と班活動の現状」「遠距離通勤片道2時間の実態」等々、職場実態を始めとして意見が多く出されました。両分会からの挨拶では、山形での合同芋煮会を来年にも引き継ぐ事と、宮城でも足を運んで交流していくことを約束され、これを基に組織拡大をこれまで以上に真剣に取り組むことお互い確認し合い、盛会のうちに終了しました。【山形 佐藤通信員】

山形連合と仙台駅連が交流芋煮会を開催



今後の日程など

○東北活動家交流集会

二月七日(日) 二時

八日(月) 二時

岩手県盛岡温泉

「南部富士見ハイット」

○組織拡大経験交流集会

二月四日(日) 三時半

一五日(月) 二時半

神奈川県三浦市

オーシャンリゾートホテル

「マホロバ・マインズ三浦」